

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第8期宇治市生涯学習審議会 第12回審議会						
日 時	平成31年4月19日(金)午後2時～4時						
場 所	生涯学習センター 2階 一般研修室						
出席者	委 員	×	井上 浩	○	佐藤 翔	○	藤林 弘
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	向山 ひろ子
		×	奥西 隆三	○	杉本 厚夫	○	森川 知史
		○	木村 孝	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
		○	切明 友子	○	西山 正一		
		○	小宮山 恭子	○	林 みその		
	事 務 局	○	伊賀 和彦(教育部部長)				
		○	上道 貴志(教育部副部長)				
		○	市橋 公也(教育支援センター長)				
		○	福山 誠一(教育支援課長(兼)青少年指導センター所長)				
		○	久泉 昭人(生涯学習課課長(兼)生涯学習センター長)				
		○	宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹)				
		○	深澤 博文(生涯学習課生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	上田 敦男(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	森川 円(生涯学習課生涯学習係主任)				
		○	太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任)				
傍聴者	0名						

会議要旨は、下記のとおりである。

- **第8期生涯学習審議会委員名簿について**
職名等の欄に変更のある方は会議後に事務局までお知らせいただくよう依頼。
- **第11回審議会の会議録について**
修正部分を確認し、ホームページで公開する。→委員了承

1. 報告事項

➤ 平成31年度宇治市教育委員会の事務局体制について

(事務局)

平成30年度までの学校教育課は、学事係を除いた学校管理係と保健給食係の2係体制として、課の名称を学校管理課と改変している。

また、去年度までの学校教育課学事係については、去年度までの一貫教育課へ移動し、一貫教育課の教育指導係と教育振興係をひとつの教育指導係として教育支援センターの中

に新たに学校教育課という名前で、学事係と教育指導係を配置する体制に改変している。
さらに、教育支援課の適応指導係については、児童生徒支援係と名称を変更している。

➤ **宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（平成 29 年度実施事業）について**

（事務局）

本意見書は、京都府宇治市教育委員会が平成 29 年度に実施した教育委員会活動及び事務事業について、教育委員会事務局担当者からの説明及びその作成による報告書と関連資料に基づいて、教育委員会会議及び総合教育会議の議事要旨も参照しながら、その適切さを評価するものである。

社会教育に関しては、P73 に学校教育と社会教育のつながりの強化について、「宇治市子どもの読書活動推進委員会」による取組や図書館に関わる事業に関する評価方法について記載されている。また、循環型生涯学習社会の進展については、生涯学習センターや公民館での講座開設等、スポーツ文化の推進については、スポーツ推進委員の人材育成等について取り上げられている。

➤ **平成 31 年度宇治市教育の重点について**

「宇治市教育の重点」は、各学校（園）や社会教育など、本市における教育の進捗状況を把握して、平成 31 年度本市教育の重点事項を示すとともに、教育活動の指針とするため策定するものである。

委員の皆さまには、2 月に「社会教育の重点」の修正案をお送りし、意見をいただいている。

「社会教育の重点」の主な変更点は、1 つに、「生涯学習社会の実現」、「人権教育の幅広い展開」「スポーツ・文化の振興」において、より事業の方向性や取組の実態に沿った内容となるよう、文言の加筆や修正をしている。

2 つに、「生涯学習社会の実現」において、喫緊の課題である「公民館のあり方」については、方針決定と文言の修正をしている。

3 つに、「家庭・地域の教育力の向上」「スポーツ・文化の振興」において、事業の見直しや終了により重点でなくなった取組を削除している。

➤ **平成 31 年度社会教育関連当初予算の概況について**

社会教育関係予算総額は、昨年度より減って 7 億 8726 万 2000 円となった。なお、教育費の総額は 54 億 5663 万 8000 円となっている。

昨年度の秋に、源治物語ミュージアムはリニューアルした。今年度は、それに伴う予算が大幅減となっているが、この 4 月から新たにアニメを上映しており、それに伴う特別企画展や記念トークショーの開催を予定している。

また、総合野外活動センターの再整備事業として、今年度はボイラーの改修を上げている。

➤ 「公民館の今後のあり方について」答申を受けて

(事務局)

平成31年2月6日に生涯学習審議会委員長より教育長へ答申をいただいた後、文教福祉常任委員会、定例教育委員会で答申内容を報告した。

現在、その答申の内容を踏まえ、市教委の方針(案)を検討している。その市教委の方針(案)について、資料に記載している構成にて検討を進めている。

まず、「1. はじめに」において、この方針(案)を作成するに至る経緯等をまとめ、「2. 課題」「3. 答申で示されたビジョン」において、今回いただいた答申の内容について、市教委として整理をし、どのように受け止めているかなどを含め、まとめていきたいと考えている。そして、その内容を受けて、「4. 市の方針と取組」「5. おわりに」において、課題解決に向けた方針・取組等を示していきたいと考えている。

今後、都度報告させていただきたい。

(委員長)

ここまでの内容について、質問等はないか。

(委員)

「宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書」について、図書館と読書推進について高評価されているが、どのような資料を提供されたのか参考までに見せていただきたい。

また、貸出冊数が減っているのは全国的な現象であるため、努力ではどうにもできない社会的な要因を探る研究として、今後図書館に相談させていただくかもしれない。

(事務局)

本日提供した資料は、最後の意見の部分に関する抜粋となっているので、そこに至るまでの資料をお渡ししたい。

2. 協議事項

➤ 宇治まなびんぐ2019 総括

(委員長)

昨年度から、「行動する審議会委員」として市民の活動を知り、我々からも情報発信をしようという目的で、まなびんぐに出展している。

展示だけでなく、ブースに立ち寄った参加者の声を聞くことを行った。

公民館を知っている人は57人、知らない人は5人、知っている人の内公民館を利用したことがある人は45人、ない人は12人であった。また、「あなたにとって公民館ってどんなところ?」という質問に対しては自由記述で回答いただき、その一覧を資料に記載している。

当日、スタッフとして参加された方々はどのような印象を持たれたか報告願いたい。

(委員)

参加者の方々に質問させていただくと、快く答えてくださる方が多かった。印象に残っているのは、「友達を探したい」と答えた92歳の方。勉強も良いけれど、お茶飲み友達が欲しいと仰っていた。これからさらに高齢化社会になるにしたがって、人との出会いの“場”が必要だと強く印象に残った。

(委員)

ブースにはけん玉・お手玉コーナーを作った。子連れの参加者は、お子さんがにこやかに遊んでいると、その親も話をしてくれる。このような雰囲気の中で話すことで本音が聞けたと思う。

(委員)

けん玉・お手玉コーナーで和んでいただき、本題にお答えいただくという仕掛けがとても良かった。公民館を利用していないと答えた方が数名いらっしゃったが、引っ越してきたからという理由であった。

50代の男性で「今は忙しく利用できないが、定年後公民館を利用したいと思っている。」という意見の方がおられた。

テレビの情報だが、働き方改革で全国的に若い人も時間ができている。カルチャーセンターが夕方のスクールを増やし、18時からヨガに通う等、時間ができた方を取り込むという動きが出てきているようだ。

(委員長)

民間のカルチャーセンター等が公民館と同じような事業をし出すとなると、公民館としての意義をなおさら考えないといけないかもしれない。

(委員)

公民館を知らないと答えた方の一人は、「コミセンの出先だと思っていた」という意見であった。もう1人は全く何をしているのか知らなかった。そのため、フラットな感覚で「防災センターで新規建設して公民館機能を持たせてはどうか。」と目先の変わった意見をいただいた。

(委員長)

市民にとっては公民館とコミセンの違いはあまり関係ない。公共施設でどういうことが提供されているのかが大事であり、我々がどう生涯学習を提供していけるのかということにつながり、答申の方向性を裏付けるものである。

(委員)

「ノウハウはママさんブラス UJ」に学ぶべき」という意見があるが、ママさんブラスは中央公民館でブラスバンドをしていた人たちが子どもをお互いにお守りしながら継続する

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

ことで大きく育った。そのノウハウがあれば、公民館の講座ももっと広がっていくのではないかという意見であった。成功例をひも解いていったらどうかという意見である。

(委員長)

他団体のノウハウを応用するなど、色んな組織から学ぶべきことは多い。

(委員)

まなびんぐ実行委員会は、事業がマンネリ化しないように新しい企画としてスタンプラリーやポップコーンの無料配布を取り入れ、大好評であった。通常、興味のあるコーナー以外は回らないが、スタンプラリーをしたことで隅々まで足を運んでいただくことができ、生涯学習センターの構造も知ってもらえる良い機会であったと思う。

(委員)

我々の活動を知ってもらうには、まずは見て寄ってもらうことが必要である。シールを貼り、遊び、話すという参加型の催しとしたことで成果を出せた。

(委員)

当審議会の存在を知ってもらえる良い機会であったが、何をしているのかという説明が難しかった。また、「京都市と比べて宇治市の図書館は使いにくい」という意見や「子どもと参加できるイベントがほしい」という意見を聞いた。催しは色んなところで行われているが、市民がその情報をうまくキャッチすることが難しいようだ。

(委員長)

まなびんぐへの出展は、当審議会の存在や、やっていることを知ってもらうことの大切さとミッションを改めて考える機会となった。普段接しない人の意見を直接聞く機会になることで意味がある出展となる。

次年度以降この出展を経て当審議会は何をどう取り組むか、どう活かしていくかを検討したい。

(委員)

当審議会を知ってもらうのは重要である。しかし、審議会が取り組んでいることについて一言で言い表せない。人によって言い方も違うので、統一感があることを言えるようになりたい。

(委員長)

出展は当審議会の認知度を高めただけでなく、委員自身が審議会活動に理解を深める良い機会であった。

(委員)

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

公民館の公共施設としての意義を、来年度以降浸透させていく必要がある。

(委員)

京都府下の研修等に参加すると、生涯学習審議会は宇治市のみであり他市町村は社会教育委員会である。

(委員)

社会教育委員の研修会では、毎回「社会教育委員って何をするの?」と言われる方が多い。当審議会は、活動の場ではなく生涯学習活動を世に広めるため何をするべきかを審議する場である。社会教育活動は世の中にたくさんある。社会教育委員のみが集まって活動するのではなく、一般の市民まで巻き込んでいくことを考えないといけない。社会教育活動がこれからの社会にいかに関係かを知ってもらうための活動をどうしていくかを検討することが、今後の方向性ではないだろうか。

(委員長)

我々は審議会委員として、行政の施策推進に対してしかるべき意見を述べていく一方で、社会教育活動が広がるように市民目線での審議会活動を続けていくことも大切だ。

(委員)

「社会教育」は社会を教育するという目線であり、「生涯学習」は学習したい人を支えるので主体は学習する人である。指導行政から支援行政に考え方が移行した時期に、宇治市は生涯学習審議会に変わった。当審議会は、すべての市民にとっての課題を、行政としてどれだけ支えられるかを審議していく場である。社会教育委員は支える立場として陰で支える存在に徹するのが本来のあり方とも思う。

(委員長)

学習者が主体的に学び、次へつなげていく力をつけることを支えるためには、陰で支える存在となったりパートナーとなったり、色んな立場でいるべきであろう。

(委員)

社会の大きな流れとして、社会教育から生涯学習へと移ってきた。しかし現在、社会教育が色濃く、生涯学習が薄れてきている。主体を勘違いして我々委員がリードしていくと思ってしまう流れになってきていることに危機感を覚えている。

(委員長)

我々はどういう役割を果たしていきたいのか、まなびんぐという機会においてどのようなメッセージを伝えていきたいのかを忘れないことと、市民の声に耳を傾ける機会を大切な機会として認識し続け、次年度以降も取り組んでいきたい。

➤ 第9期に向けた第8期生涯学習審議会の総括

(委員長)

第8期は大きな二つのことを手掛けた。一つは「宇治市図書館事業計画」に関する議論を進めた。もう一つは「公民館のあり方」に関する諮問に対し、公共施設のあり方そのものを提案できるような答申を作るように議論してきた。

二つの公共施設に関する議論において、市の生涯学習関連の施策化や事業化、また限られた宇治の資源・資産を有効に活かすとともに、政策・施策・事業に「宇治らしさ」を醸し出すための手掛かりとして当審議会の想いをのせてきた中で、我々は3つの方向性を共有できたのではないだろうか。

一つ目は、公共施設は市民の豊かな生涯学習を創出するための確固たる「拠点」として機能するべきであること。二つ目は、生涯学習の推進拠点となる公共施設が市民と市民を繋ぎ多様な活動を新たにデザインする「学びの場」となり、「文化」と「学び」を通じた人と宇治市の未来をつなぐということ。そして三つ目は、既存の枠組みにとらわれない公共サービスと協働の新しいカタチ・仕組みをつくるためのきっかけ作りとしての議論であったことである。

これらを踏まえ、第9期に向けての「生涯学習審議会」のあり方についてだが、以前から引き継いでいる「行動する生涯学習審議会委員」の具現化・実質化を更にすすめ、視野とネットワークの拡張を図ることが求められるだろう。その手がかりとなるのが「ネットワーク」から「ノット（結び目）ワーキング」であり、情報によってつながった人たちと新しい関係や価値、スタイルを構築するような、積極的な仕掛けをしていくことが必要である。そして、「既存の枠組みにとらわれない」ということは、生涯学習審議会のあり方や行動にも体现化されるべきである。これらが、第9期に向けて、私から提案したいことである。

(委員)

社会教育委員会ではなく、生涯学習審議会であることの意味を再認識できた。市民を支えるという目線で活動することに、誇りを持ちたい。

(委員)

まなびんぐで実施したアンケートのように、市民の声をもっと集めてそこからヒントを得ていく必要があるのではないかと。我々が頭を固くして考えるのではなく、市民の考えを吸収しそこを土台にして活動したい。

(委員長)

審議会委員それぞれの活動フィールドで声を集めるという動きがあってもよい。

(委員)

社会教育委員の研修会では、地域性の違いを感じる。当市は委員それぞれが活動のフィールドを持っており、審議が成り立っている。今の審議会の動きをもっと知ってもらった

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

ら良い。その方向性で第9期も進めていくことは重要ではないか。

(委員)

審議会は何をしているのかと問われた時に、どのように答えればよいか教えてほしい。

(委員長)

まずは委員が各自自分の言葉で表してみると良い。その方が、言葉に思いがのるだろう。

(委員)

第8期に公民館のことを勉強する中で、「建物がなくても生涯学習はできるのでは」と思うようになった。そのことをもっと発信出来たら、皆の目先が変わって良いのではないだろうか。第9期にはそういったことも検討してみてはどうか。

(委員長)

様々な活動を通じて生涯学習の形をメッセージする、何が生涯学習なのかを考えるきっかけを提案することもできる。

(委員)

国の流れとして、体育からスポーツとなっている。体育は教えるという観点であるが、スポーツは選手も応援団も観客も一つになって参加している。我々は教えるのではなく皆が生涯学習に参加するにがり（活動や人を結びつける連結ピン）となる必要がある。我々はニーズばかり聞くのではなく、シーズ（種まき）をするべきであり、それこそが生涯学習を陰で支える存在であるべき部分であろう。

(委員)

学ぶ市民をどう育てていくか、また、学ぶだけでなく循環させる必要がある。社会活動にどう巻き込んでいくかということである。

(委員長)

享受者から行為者になる仕掛けや橋渡しが必要である。

(委員)

享受したものを社会へ返していかなければならないという循環の仕掛けをどう作っていくのかが議論されないといけない。

(委員)

幅広い世代の人がまなびんぐに来場するが、10代後半から20代がいない。その世代も巻き込む方がよいのか。

(委員)

活動の拠点が高校や大学になると、公共の場には出てこない。しかし、地域のイベントに積極的に参加している大学生もいるので、仕掛け次第だろう。また、そのような仕掛け作りをする民間企業もあるが、行政と結びつかない。まずは市内に何があるのかという把握も必要だろう。

(委員)

NPO の活動やボランティア活動など、公共に関わりたい大学生はたくさんいる。そこを巻き込める仕掛け次第である。

(委員)

若い人は、地元より世界を見ている。取り込もうと思うと、よっぽどの仕掛けがいる世代なのではないか。

(委員)

宇治を足掛かりに世界に出て行ってもらってもよい。審議会にそういう世代が入ってきてほしい。

(委員長)

若い世代の巻き込み、次世代への受け渡しの取っ掛かりになることを見据えて、そこに関わるような人の話を聞く機会を設けても良い。

(委員)

生涯学習をしている人を見ていると、これからの学校のあり方を示唆しているように感じる。生涯学習は自身の生活や人生が豊かになるものである。生涯学習から学校教育へ「個」が生きるための学習というメッセージを送れるのではないか。

生涯学習の担い手を育てていく、引き継いでいくことが持続可能な社会であり、学習した人が次の人へバトンを渡すという循環を形成することが重要になる。

(委員長)

いくつか課題を拾い集めることができた。若い人の巻き込み方（生涯学習の担い手を作るのか、バトンを渡すのか）その部分を考えていかないといけない。また、生涯学習そのものが学校教育に新しい提案ができることがあるかもしれないことを踏まえ、新しい生涯学習審議会のあり方を考えることもできる。そのあたりを踏まえながら第9期もすすめていきたい。

3. その他

➤ 平成31年度社会教育事業について

(事務局)

平成31年度社会教育事業の予定は次のとおり。

- ・山城地方社会教育委員連絡協議会 6/14(金) 精華町
- ・京都府社会教育委員連絡協議会 6/28(金) 京田辺市
- ・全国社会教育研究大会(近畿大会兼ねる) 10/23(水)～10/25(金) 神戸市
- ※予算の都合上、3日間のうち1日だけの参加となる
- ・京都府社会教育研究大会 11/22(金) 南丹市
- ・山城地方社会教育委員連絡協議会研修会 1/17(金) 南山城村

委員改選があるため出欠はとらないが、日程の関係上、府社委・山社委は新任委員に郵送等で出欠を取るようになる予定。

• 最後に

(委員長職務代理)

2年間様々な審議をしてきた。特に本日は、生涯学習審議会という名称通りの審議ができたと感じている。ありがとうございました。